



有機農業推進プロジェクト 田上由菜さん、槌田晴菜さん 南阿蘇村の美味しい食材を、 もっともっと地域で活用できる仕組みを！

共に県外出身の田上さんと槌田さん(写真左2人)。2021年に着任し、農業みらい公社の設立から携わってきました。

左/現在力を入れているのは、農産物マッチングシステム「ジモノミッケ!」。村内の生産者、飲食店事業者にシステムの説明に行きます。この日は、タイ料理店アロイジャンを切り盛りする田内秀樹さんのもとへ。

取材・文・撮影/地域おこし協力隊 家人明日美

写真提供/地域おこし協力隊 ヴィルヘルム=ヨハネス

農業と観光を基幹産業に掲げる南阿蘇村。ところが、地域の飲食店が地元食材を存分に活用できているかという…。「使いたいけれど、どこで買えばいいの? 少量の注文にも応えてもらえるの?」と、困っている事業者が意外と多いよう。一方生産者は、「大切に育てた作物を地域で活用してもらいたい」という思いはあれど、どんな野菜を育てているかを伝える機会が少なかったり、細かな発注に対応する時間や人手がなかったり。そんなもどかしいすれ違いが起こっています。

そこに一石を投じるのが、南阿蘇村環境保全農業推進協議会が実証をおこなう農産物マッチングシステム「ジモノミッケ!」。地域おこし協力隊有機農業推進プロジェクトの田上由菜さん、槌田晴菜さんが中心となって協力者を募り、少しずつその輪が広がっています。飲食店は、使いたい食材をネット上にアップ。生産者がその情報をチェックし、食材を準備。集荷配送は田上さんと槌田さんが担当。やり取りは主にネット上で完結でき、集荷・配送にも手間をかけずに済むという利点があります。なにより「地域の食材を活用して、その魅力を消費者に届けられる」点にやりがいを見出して

いる人たちも多いよう。提供した野菜について、「おいしかった」などの消費者からのメッセージが返ってくることもあり、作り手にとってはこれ以上ないご褒美になっているようです。

田上さんは東京都、槌田さんは大阪府の出身。「南阿蘇村の農産物はとびきりおいしい! 農業によって形成される景観がとってもきれい!」と身をもって実感している2人だからこそ、この取り組みへ寄せる思いはひとしお。ジモノミッケ!をツールに、「南阿蘇村のファン、地域の農業を支えてくれる人を増やしたい。いずれは、生産者と事業者の交流の場づくりもしてみたい。野菜の貯蔵方法を生産者に教わったり、面白い食べ方を事業者に教わったり」と笑顔で話してくれました。

任期3年目を迎え卒業の時期が迫る2人。地域の農業と向き合う中で、割り切れない課題にも数多く直面してきました。それでも、「地域全体がよりよい方向へ進めるように、できることを模索したい」と真摯に言葉を重ねます。戸惑いながらもコツコツと重ねてきた努力、培ってきた人との縁が、2人のなかにしっかりと根を張っているのを感じました。



ジモノミッケ!に関するお問い合わせは、農政課(TEL0967(67)2706)まで。

左・中/ジモノミッケ!の注文画面にバクチーの注文が入ったところ。手配可能な生産者が品物を準備し、田上さんと槌田さんが集荷・配送します。「遠方へ買い出しに行ったとしても売っていないこともある。村内で購入できる可能性があるのはうれしい」と、事業者からの声が寄せられています。

右/南阿蘇の野菜をちりばめた、ジモノミッケ!のロゴマーク。

11月25日(土) オーガニックマルシェ 開催のお知らせ!



おいしい野菜や加工品が、道の駅あそ望の郷くぎのに大集合! 写真は過去開催の様子です。

詳細は、SNSでチェック。

Instagram: @organicmarche.minamiaso



オーガニックマルシェ
Instagram